

第3回定例研究会

「甲子園ホテルが舞台の戦前名画を見る」

第3回定例研究会は、兵庫県映画センター映画プロデューサーの鶴久森典妙先生をお招きして、「甲子園ホテルが舞台の戦前名画を見る」というテーマで講演いただきました。また、甲子園ホテルで勤めておられた川端三之助氏（元リーガロイヤルホテル副支配人）をお招きし、甲子園ホテルの当時をお話いただきました。鶴久森典妙先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

昭和23年生れ、西宮市在住。

映画配給会社「兵庫県映画センター」（神戸市中央区）に勤務。核燃料廃棄物を主題とした『24,000年の方舟』（1986年）、大阪・能勢町で脱サラ後農業に従事する尾崎零さんを描く『フランドン農学校の尾崎さん』（2006年）などのドキュメンタリー映画のプロデューサー（製作担当）を勤める。『風ものがたり』（1995年）にて、地球環境映像祭環境教育映像賞と日本映画復興奨励賞、『奇妙な出来事アトピー』（1991年）は日本記録映画作家協会賞を受賞し、全国上映1000箇所を超えた超ベストセラーとなった。2007年に、写真集『日常の誘惑』を出版。また、宝塚映画祭共催で、甲子園会館にて撮影された日独合作映画「新しき土」（1937年）を、国立近代美術館の協力を得て上映。

講師

鶴久森 典妙 氏（兵庫県映画センター映画プロデューサー）

テーマ

甲子園ホテルが舞台の戦前名画を見る

講演日

2008年10月4日（土） 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 西ホール

申し込み

不要